

2018年 ABAC 第2回東京会議ニュースリリース【仮訳】

東京

2018年4月19日

岐路に立つアジア太平洋 ～ 繁栄への選択

「APEC 地域は岐路に立っている」 2018年 APEC ビジネス諮問委員会 (ABAC: APEC Business Advisory Council) 議長のデイビッド・トゥーア氏は、東京で開催されたアジア太平洋経済界のシニアリーダー会合でそう語った。「ひとつの道は、開かれた市場に、また財やサービス、人と投資のダイナミックな流通や、包摂的な成長へとつづく道。もうひとつは後退へ、即ち保護主義、排除と地域経済のスローダウンへとつづく道である。」

「われわれはアジア太平洋の発展を停滞させてはならない」

来月、パプア・ニューギニアのポートモレスビーで開催される APEC の貿易大臣会合に向けて、ABAC は一連の詳細な提言を準備したとトゥーア氏は述べた。

「APEC の強みは、地域内の深い経済的結びつきと、地域の枠を越えた外向的な活動という2本の柱に由来するものである。もしもわれわれが、例えば小規模事業者、女性、技術革新の負の影響を被った者などを含む自らのコミュニティにとって真の意味であまねく成長を欲するのであれば、われわれは新しい規制を導入するのではなく、貿易・投資への障害を減らし続けなければならない。」

「国際的ルールに基づく世界貿易機関 (WTO) の貿易体制は、紛争処理メカニズムや各加盟国・地域の譲歩と義務も含め、その体制が十分に尊重されねばならないにも拘らず、この地域で保護主義的な発言や行動がエスカレートしている現状をわれわれは深く憂慮している。小さく脆弱な国や地域であっても、世界のバリュー・チェーン、サプライ・チェーンに組み込まれて重要な役割を担っているその者らが巻き添えを喰うことがあってはならない。」とトゥーア氏は語る。

国際的ルールに基づく貿易体制はこれまで何十年もの間、世界経済に繁栄をもたらし、われわれの域内の極度の貧困を目覚しく削減する礎となってきたことに言及し、その健全性が維持されることが何よりも重要であるとトゥーア氏は指摘した。

「WTO 体制と、それから 2020 年より先を見据えてわが地域が目指すべきビジョンの中核として推進している『アジア太平洋自由貿易圏 (FTAAP: Free Trade Area of the Asia Pacific)』を重視していることについて、ABAC は貿易大臣に対して強いメッセージを送っ

た。とりわけ FTAAP の道筋協定の 1 つである『包括的および先進的な環太平洋パートナーシップ協定 (CPTPP: Comprehensive and Progressive Agreement for Trans-Pacific Partnership)』の合意が先月完了したことを歓迎するものである。われわれはこの合意を可能な限り早期に批准、実行に移すよう当事国に要請する。」

今年、世界の GDP と貿易高の成長率が 4.4% のプラスになるという見通しが伝えられる中、現下の諸問題について APEC が野心的なリーダーシップを示す好機にあるとトゥーア氏は見ている。

「すなわち、貿易自由化によってもたらされる機会を擁護し、その機会へのアクセスを拡大するためにわれわれがすべきことはまだまだある。個々の国・地域内における所得分配の問題については一これらへの対応は貿易政策というより主に国内問題であるが一何らかの対応が必要であるのは明らかである。生活水準の向上や雇用創出において長く貢献してきた貿易・投資がひとびとの信頼を取り戻すうえで、政府と企業にはそれぞれ果たすべき役割がある。」とトゥーア氏は言った。

ABAC の報告書においては、非関税障壁の削減・撤廃、サービス貿易の拡大、国境を越えた投資フローの促進といった重要なアクションが提言されている。

「最後に、われわれは貿易大臣に対し、デジタル経済にかかる努力を倍加させる必要性を強調した。必要とされているのは、効率的な規制をもたらす政策であり、デジタル貿易やイノベーション、データと情報の自由な流れといったものを制限するのではなく、促進すべきものであると同時に、引き続き消費者情報の保護と情報セキュリティの強靱化を図るというものである。われわれはまたデジタル・デバイドといった現象を最小化すべく、未来志向の労働力の育成支援—すなわち、インフラ投資、構造改革、教育とスキル向上のトレーニングについて、最大限の注意を払わなければならない」とトゥーア氏は結んだ。

以上